

石井至の世界放浪記

帰国して驚いた

謹賀新年。ひさびさに総理大臣が変わらない新年を迎える。

十一月はロシア最大日刊紙コムルサントの旅行冊子編集長エゴル氏のお相手をするために日本にいたことは先月お話しした。海外でのアポが溜まっていたので、エゴルが帰国するその日に私も成田から海外に出かけた。

十二月前半の約二週間は海外にいた。その出張から戻り、この原稿を書いている。「新年号は年末進行のため原稿締切が早くなる」と一水会事務局から言われ中旬の執筆だ。帰国すると、我が友・木村三浩さんの名前が毎日、新聞・雑誌に出ていて驚いた。その話はしかるべきタイミングでご本人がするだろうから、私としては、木村さんを信じて見守り、何かあったら微力ながら支えるだけだ。

十二月後半も海外出張が二回、国内が二回と入っており、師走の忙しさが毎年加速する感

がある。

十二月の海外二週間の最初の訪問先はアルバニアだった。十月にアルバニア大使ブヤールさんとある会合で会い大使館に遊びに行ったところ、アルバニアも観光推進をしたいと言う。前にお話ししたとおり、今年春から私は国土交通省の観光立国推進有識者会議の委員をしているので、その関係で、最近はずらに外国政府から観光振興について相談を受けることが多くなった。その一環だ。

日本航空でフランクフルトまで行き、そこからウィーンに移動。さらにアルバニアの首都ティラナまで三本続けて飛行機に乗りついで到着した。

シヨッカーの故郷・アルバニア

アルバニアはまだEUに加盟しておらず、通貨も独自通貨「レク」。一レクは約一円なので

計算は簡単だ。治安はよく物価も安く現地の人たちも気さくで、いい国だ。現地の観光庁長

官や観光協会事務局長らにあって色々話を聞いたが、困ったことに、観光地としてのパンチがないのだ。近隣のギリシャやクロアチアからの観光客の通過経路になつていふ言うことだった。

ところが、帰りの空港で、ふと、国旗を使ったキーホルダーが目に入った。国旗のデザインが非常にユニークなのだ。ぜひインターネットで「アルバニア、国旗」と検索してみてほしい。私は見た途端、仮面ライダーに登場する悪の軍団「シヨッカー」のマークに似ていると思った。もしかしたら、これはいけるかも、と。「シヨッカーの故郷、アルバニア」というコピーだ。美しい青い海のビーチに、黒づくしのシヨッカーの隊員が「イーツ」と叫んでいる写真がポスターにどうかと。

旅をしながらのダイエット

帰国後に調べたところ、仮面ライダーの肖像権は東映と石森プロが管理しているようだった。

た。実は東映の社長の岡田さんも観光立国推進有識者会議の委員で委員仲間なので、岡田さんの秘書に連絡をとり、すぐに担当者を紹介してもらった。

万事に関して「悪乗り」が好きな私でも、「ちよつと悪乗りし過ぎかなあ」と思いながら担当者に会ったところ、担当者の人は非常に心が広く門前払いを避けられた。さらに「当社もそうですが、肝心のアルバニア政府は悪の軍団でキャンペーンをすることに抵抗はないんですか？」と心配される始末。確かに、まだアルバニアの人には何も相談していない。単にアイディアとして浮かんだだけだ。

来々、またアルバニアには行くことになりそうなので、そのときに観光長官に私の秘策を披露し意見を聞こうと思つている。国旗に対する冒瀆ではないかという批判はあり得る。ただ、日本人の多くはアルバニアがどこにあるかも知らない。アルバニアに興味を持つてもらい、逆に国旗の由来や意味についても調べてもらうきっかけになると

説得するほかない。だから、コピーは「シヨッカーの故郷？アルバニア」と「？」を入れることになるだろう。

アルバニアの訪問後、ロンドンを経由し、ポルトガルのリスボン、フランスのビアリッツに行つた。いずれも旅行ガイドの取材だ。リスボンでは、名物のエッグタルト「パステル・デ・ナタ」を朝から晩まで食べた。皆さんが想像する、あるいは、日本で食べるエッグタルトとは違う味だ。ビアリッツはフランス西南部のスペイン国境沿いの都市で、バスカ地方にある。バスクの生ガキ、ハム、チーズ、魚肉を堪能した。

私は今年ひよんなこと（人には言えない恥ずかしいこと）がきっかけでダイエットを開始し、年初から二十五キロほど痩せた。しかしながら、案の定、帰国すると体重が三キロ太つていた。

体重を話題にするくらいだから、私の人生はおそらく平和なのだろう。皆さまにとつても、新年が素晴らしい一年になることを祈念している。

石井 至（いしい・いたる）

昭和四十年、北海道生まれ。東京大学医学部卒。フランス系のインドスエス銀行を経て、平成九年に石井兄弟社設立。同社代表取締役。金融ハイテク技術コンサルタントを行う他、東京にて幼児教室「アンテナ・ブンスワレー」を営む。